



## Thump Series

<http://mackie-jp.com/thump/>



### 新しい**Thump**シリーズにはどのようなモデルがありますか？

新しい**Thump**シリーズは**4**機種のフルレンジモデルと**1**機種のサブウーファーをご用意しています。

- **Thump12A 1300W** 12インチパワードラウドスピーカー
- **Thump15A 1300W** 15インチパワードラウドスピーカー
- **Thump12BST 1300W** 12インチパワードラウドスピーカー **with Bluetooth**
- **Thump15BST 1300W** 15インチパワードラウドスピーカー **with Bluetooth**
- **Thump18S 1200W** 18インチサブウーファー



[mackie-jp.com](http://mackie-jp.com)



# Thump Series

# FAQ

<http://mackie-jp.com/thump/>

## Thumpパワードラウドスピーカーはどのような設置が可能ですか？

すべてのモデルに**35mm**φのポールマウント取付が可能です。一般的な三脚スピーカースタンドやサブウーファーの上にポールマウントが可能です。

## Thumpパワードラウドスピーカーは設置にどのようなポールを使用しますか？

サブウーファーの上に設置する場合は**Mackie**純正オプションのマウントポール **SPM200**が使用可能です。

## 「デュアルモニターアングル」とはどのような意味ですか？

フルレンジモデルの**Thump12A**、**Thump15A**、**Thump12BST**、**Thump15BST**いずれのモデルも左右対称の形状を採用。また床設置時に転倒防止の脚も装備しています。左右対称のためメインボーカル用としてフロントに**2本**設置時はツイーターの位置を内側に**2本**とも配置することが可能です。もちろんツイーターの位置は**2本**とも外側に設定することも可能ですよ。

## ライブハウスで **Thump**パワードラウドスピーカーを天井から吊るしたいのですが・・・。

**Thump12BST**、**Thump15BST**この**2**モデルには**3**箇所、**MIO**アイボルトが取付取付可能です。**Mackie**純正アイボルト**PA-AI**を別途お買い求めいただき、ワイヤー等で躯体から吊り下げてください。現場にあわせ安全基準に法ったワイヤーを別途ご用意ください。この**3**箇所の**MIO**ポイントを使い特注で金具を作るのもいいでしょう。これらスピーカー設置にかかわる作業は安全に設置工事が可能な工事資格を持った専門業者にご依頼ください。

## リミッター**LED**ランプが点灯し続けています。

リミッター**LED**ランプが点灯し続けているということは入力レベルが大きすぎることを意味します。このような状態が続く場合、リミッター**LED**ランプがつくつかつかないかぐらいまでメインレベルボリュームを下げてください。すべての**New Thump**シリーズには次世代保護回路と加熱制御システムを実装しスピーカー損傷を事前に回避します。



[mackie-jp.com](http://mackie-jp.com)





## Thump Series

<http://mackie-jp.com/thump/>

### ThumpBSTシリーズに搭載されているスクリーンで表示される機能は？

バックライト付のディスプレイを装備しプッシュボタン式のロータリーエンコーダーで各入力チャンネルのレベル、メイン出力のレベルはもちろんのこと**EQ**設定含む**3**チャンネルデジタルミキサーの大半の機能をコントロールすることができ、さらにワイヤレス設定やセットアップ機能も可能です。もちろん製品ステータスの確認もできます。

Main Screen



Mixer Screen



EQ Screen



Voicing Screen



### ThumpBSTシリーズに搭載されている**3ch**デジタルミキサーでできることは？

この**3ch**のデジタルミキサーには**ThumpBST**に実装された背面のパネルからアクセスできます。楽器、マイク、ラインとあらゆる入力に対応可能な**Wide-Z™** テクノロジーを採用した**Vita™**プリアンプを**2ch**分搭載、さらに**Bluetooth**デバイスからのワイヤレスストリーミング入力**1**系統、計**3ch**の入力を**ThumpBST**本体背面パネルから制御可能です。さらに**3**バンドの入力チャンネル**EQ**の調整や用途に応じて選択可能な**6**系統のスピーカーモードの切り替えもコントロールすることが可能です。



[mackie-jp.com](http://mackie-jp.com)



## Thump Series

<http://mackie-jp.com/thump/>

### 用途に応じたスピーカーモードとは？

イベントや使用用途に応じてスピーカー出力にかけることのできる選択可能なプリセットEQを搭載しています。**ThumpBST**シリーズには**6種類**、**ThumpA**シリーズには**4種類**プリセットEQを装備しており、誰でも簡単に現場や用途に合わせた最高のサウンドを瞬時に設定ができます。高価な音響測定ソフトや小難しい昔ながらのPAエンジニアのチューニングも不要です。**Thump**パワードラウドスピーカーを使えば誰でも簡単に最適なサウンドを演出することができるのです。

#### Thump Boosted Modes

- MUSIC
- LIVE
- SPEECH
- MUSIC WITH SUB
- LIVE WITH SUB
- STAGE MONITOR



大半の場合は一番素直な音が再生可能な「**LIVE**」モードが良いでしょう。

「**MUSIC**」モードは低域と高域をブーストしています。音楽**BGM**再生に最適でしょう。

「**MONITOR**」モードはフロアモニター設置時に最適です。ボーカル再生帯域を前に出し、さらにハウリングしないようなEQ設定をしています。

「**SUB**」モードは**Thump18S**などのサブウーファーと一緒に使用する際に最適なモードです。低域がサブウーファーとかぶらないよう若干カットし、**Thump**シリーズに中高域を担当させることにより明瞭度の高いサウンドを実現します。

#### ThumpI2A/I5A Modes

- MUSIC
- LIVE
- MONITOR
- SUB



[mackie-jp.com](http://mackie-jp.com)



## ThumpBSTシリーズのチャンネルEQについて教えてください

ThumpBSTシリーズにはすべての入力チャンネルに3バンドEQを装備。またch1とch2には可変可能なハイパスフィルターも装備しています。これらのEQは入力したチャンネルの音源の微調整に役立ちます。ちょっとしたイベントであればミキサーは不要です。EQ調整には本体背面に実装されたディスプレイとロータリーエンコーダー、もしくはスマートホンなどのBluetoothデバイス用アプリ、Thump Connect™からワイヤレスでコントロールすることができます。狭い部屋などで使用する場合、入力チャンネルのEQで低域を少しカットするといいいでしょう。また入力チャンネルのEQを触りたくない場合は用途に合わせ6種類のプリセットEQから最適なプリセットを選択するといいいでしょう。

## サブウーファーThump18Sと一緒に使う場合スピーカープロセッサは必要ですか？

Mackie SP260のようなスピーカープロセッサを使うと詳細な設定が可能ですが、ご予算のない方は使わなくても大丈夫です。Thump18Sにはクロスオーバーネットワークを搭載していますし、ThumpシリーズのプリセットEQで「SUB」モードを選択すれば大丈夫です。

## ThumpBSTシリーズとThump18Sの接続方法を教えてください。

ThumpBSTシリーズの入力に音源を接続し、ThumpBSTシリーズのMIX OUTからThump18Sの入力に接続してください。この接続を行うことによりThumpBSTシリーズ搭載のデジタルミキサーを最大限有効に使うことができ、さらにデジタルクロスオーバーネットワークを使うことができます。スピーカー設置、配線時にはすべての電源をOFFにしてくださいね。設置配線が終わったらまずThumpBSTの電源を入れ、次にThump18Sの電源を入れてください。このことによりバツン！といったノイズを防ぐことができます。

## Thump18Sのハイパス出力はどのように使うのでしょうか？

Thump18Sとフルレンジスピーカーを接続するときに使用します。ハイパス出力は低域をカットした中高域のみ出力します。その名の通りハイパスです。Thump18Sに低域を負担させフルレンジスピーカーには中高域のみを担当させることにより、より明瞭度の高いサウンドを実現します。効率よく中高域をフルレンジスピーカーで再生させることができるのです。余計な仕事をしないほうが仕事の作業効率が上がるのと同じですね。Thump12A、15Aと接続する場合はThump18Sに音源を接続し、ハイパスアウトからThump12A、15Aの入力に接続してください。





## Thump Series

<http://mackie-jp.com/thump/>

スピーカーの電源を**ON/OFF**した際に「ポツ」という音が出るのですが・・・。

これは異常や不具合ではないですよ。ご安心ください。この「ポツ」という小さな音はアンプ回路内部に残っている電気がスピーカーによって放出されることにより発生します。**ThumpI2A**や**I5A**とサブウーファー**ThumpI8S**を一緒に使う場合、電源投入前にすべてのケーブル接続を行ってください。ケーブルの接続が完了したらまず**ThumpI8S**の電源を**ON**にしてから**ThumpI2A**、**I5A**の電源を**ON**にしてください。

ヤマハパワーアンプを持っていますが**Thump**シリーズに接続できますか？

ヤマハのパワーアンプにかかわらずパワーアンプの出力を**Thump**シリーズの入力に接続しないでください。故障するだけでなく、発火し火事の原因にもなります。**Thump**シリーズの入力はミキサーのメインアウト、**AUX**アウト、マイク、楽器、ミュージックプレーヤーなどのアンプ出力でない音源に対応してます。

**Bluetooth**デバイスからワイヤレスで音楽を再生させることはできますか？

**ThumpBST**シリーズ(**ThumpI2BST/I5BST**)は**Bluetooth**ワイヤレスストリーミングに対応してます。**iOS**または**Android**デバイスをご用意ください。さらにこれらの**iOS**または**Android**デバイスに**Thump Connect™**アプリをインストールすることにより音量調整、**DSP**セッティングなどワイヤレスで内蔵**3ch**デジタルミキサーのすべての機能をコントロールすることができます。

**ThumpBST**スピーカー**2**本をワイヤレスでリンクすることはできますか？

もちろんできます。**ThumpBST**シリーズ(**ThumpI2BST/I5BST**)**2**本を最大で**100m**はなれた場所からワイヤレスでリンクさせることができます。**1**台の**Thump Connect™**アプリをインストールした**iOS**または**Android**デバイスから**2**本の**ThumpBST**シリーズに直接ワイヤレスで音楽再生することができます。また**2**本の**ThumpBST**シリーズを**1**台の**iOS**または**Android**デバイスからすべての機能をコントロールすることができます。さらにリンクもボタンひとつで自動的に行うことができ難しい設定は不要です。





# Thump Series

# FAQ

<http://mackie-jp.com/thump/>

ThumpBSTシリーズのBluetoothプロトコルを教えてください。

またThumpAシリーズはBluetooth対応ですか？

新しいMackie ThumpBSTシリーズには最新のBluetoothチップセットを搭載しています。ThumpAシリーズはBluetooth非対応です。Bluetoothチップセットの最重要な仕様は送信出力です。これは3段階のクラス分けで評価されます。ThumpBSTシリーズのスピーカーリンク機能にはクラス最高のClass1が認定されてます。ThumpBSTシリーズは見通しの良い電波障害の少ない会場では最大100mはなれた距離でもリンクが可能です。これはWi-Fi通信に匹敵するほどの距離です。

ただしこの距離はThumpBSTと一緒に使用するBluetoothデバイスのクラスに依存します。

最近のノートパソコンであれば大半はClass1のBluetoothに対応しています。ノートパソコンなどでClass2のBluetooth対応デバイスの場合はClass1対応のUSBアダプターを使うことをお勧めします。

また大半のスマートホンやタブレットはClass2までの対応ですがiPad第4世代、iPhone6以上であればClass1のパフォーマンス(80m~100m程度)を実現します。

入りに機器を接続しただけでハムノイズが乗るのですが・・・

他の機器が接続されているときにスピーカーから60Hzのハムノイズが乗る場合、グラウンドループが原因のノイズだと推測されます。このグラウンドループはふたつの機器間でシグナルグラウンドの電気的相互作用によって発生するものです。そしてこれらは必ずしもスピーカーが不具合を起こしているということではございません。もしThumpシリーズをバランス接地しているのであれば、このハムノイズを解決するもっともシンプルな方法は信号源に近い電源ケーブルの端でシグナルグラウンドリフトを行うことです。注意:これは安全を確認した上で行うことであり、電源プラグのアースを遮断することになります。もしThumpシリーズにアンバランス接続されているのであればRadial ICE CUBEのような機器を使うことによってグラウンドループを除去することができます。



[mackie-jp.com](http://mackie-jp.com)

